



「健康コラム」

病気と予防のお話し ～JCHO 船橋中央病院から～

第16回 新型コロナで損なわれるがん医療の低下を食い止めるために

病院長 山口 武人 先生

新型コロナ流行の収束がなかなか見通せない中、通常の医療とコロナ診療の両立が困難な状況が続いています。脳梗塞や脳出血などの脳血管障害、心筋梗塞や狭心症などの心疾患、コロナ以外の肺炎は今までと同様に重要な医療対象ですが、その受け入れが難しい現状となっています。さらに、がん検診の縮小や、感染を心配した受診抑制もあり、がん患者さんの予後悪化も大きな懸念となっています。実際、昨年未くらいから進行がん患者さんが増えているのでは、と感じている医師が多くなっています。専門医によるアンケート調査では、進行がんが増加している一方、早期がんは3～4割減少していると感じているという、深刻な状況が明らかになっています。

私ども船橋中央病院は、感染症指定医療機関、新型コロナ重点医療機関として、現在までに200名以上の新型コロナ患者さんを受け入れ、治療させていただきました。また、新型コロナに対応した感染管理を徹底し、発熱外来や入院時の抗原検査・PCR検査も通常診療として行っており、がん患者さんあるいは検診希望の皆様が新型コロナへの不安なく、安心して受診していただけるような体制を整備しております。

がんの予後を改善するためには、早期診断・早期治療が必須であることは言うまでもありません。治療が必要ながん患者さん、がんの心配・不安のある方はぜひ躊躇することなく当院を受診し、何でもご相談いただきたいと思います。